

概要

■ 目的

このプログラムは大きく分けて2つの目的で開発しました。

1. プログラム開発時のSQLのデバッグ用

デバッグ用としては、プログラム開発のデバッグ時に生成されるSQLの抽出結果を確認するために手軽に Excel に吐き出したかったためです。
データの検証を行うときにとても重宝します。

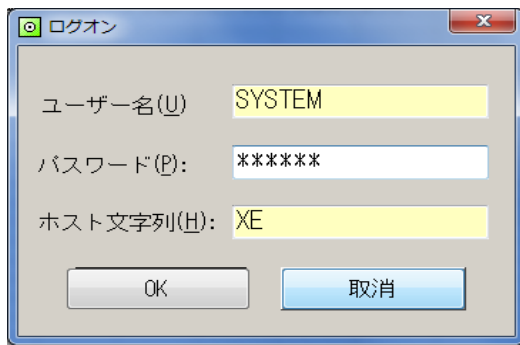
2. 定常業務を行うためのシステムをごく短期間で開発する

文字通りSQLを書くだけでデータ抽出システムとして利用いただけます。
そのために、SQLの保存・読込が出来、可変条件に対応できるようパラメータ入力ができるようにしてあります。

画面説明

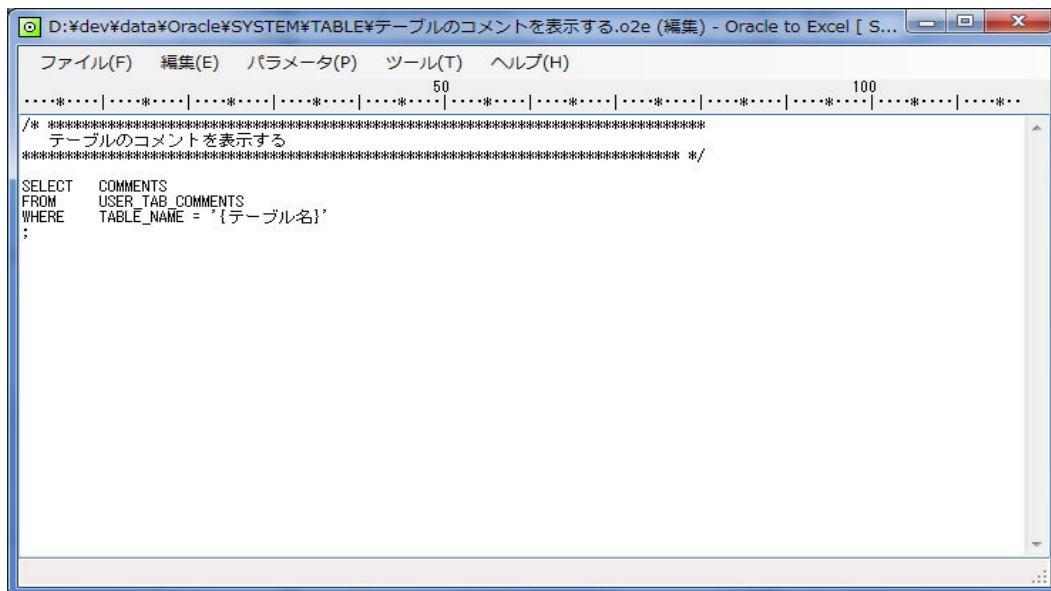
■ フォルダ選択

データベースへの接続情報を指定します。



■ メイン

SQLの編集・読込・保存を行います。
SQLに埋め込んだパラメータに値をセットします。
編集したSQLの結果をExcelに出力します。



メニューバー

ファイル	
・新規作成	画面や編集中のファイル情報を初期化する
・開く	保存してあるSQLを開く
・上書き保存	ファイルから開き、編集したSQLを上書き保存する
・名前を付けて保存	編集中のSQLを名前を付けて保存する
・再ログイン	データベースへの接続情報を変更する
・終了	プログラムを終了する
編集	
・元に戻す	直前に編集した内容を元に戻す（一世代のみ）
・全選択	編集したSQLを全選択する
・切り取り	SQLの選択範囲を切り取る
・コピー	SQLの選択範囲をコピーする
・貼り付け	クリップボード上の文字列をSQLに貼り付ける
パラメータ	
・登録	SQL中に埋め込んだパラメータ項目に値をセットする
・編集	SQL中に埋め込んだパラメータ項目に値をセットする（再編集）
ツール	
・VBソース変換	編集したSQLをVB.netのソース用に変換する
・Excel出力	編集したSQLから抽出した結果をExcelに出力する
・オプション設定	プログラム実行上の基本項目を設定する
ヘルプ	
・目次	本PDFを開く
・バージョン情報	プログラムのバージョン情報を開く

画面説明

ステータスバー

オプション画面にて指定した内容を表示する

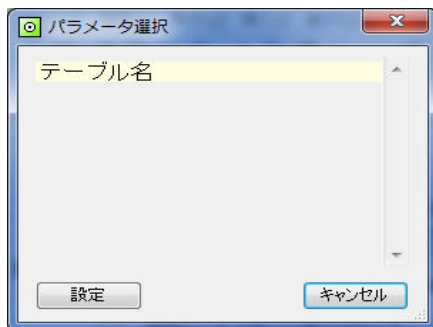
■ パラメータ挿入

SQL中にパラメータを埋め込みます。
メイン画面から右クリックにより呼び出します。



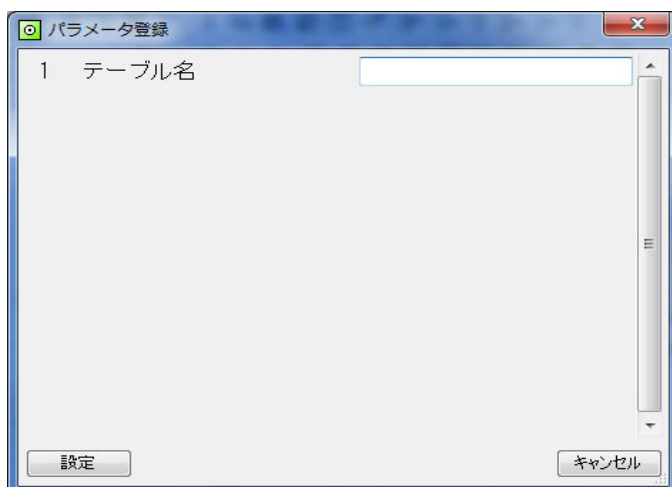
■ 既存項目挿入

既出のパラメータから選択し埋め込みます。
メイン画面から右クリックにより呼び出します。



■ パラメータ登録・編集

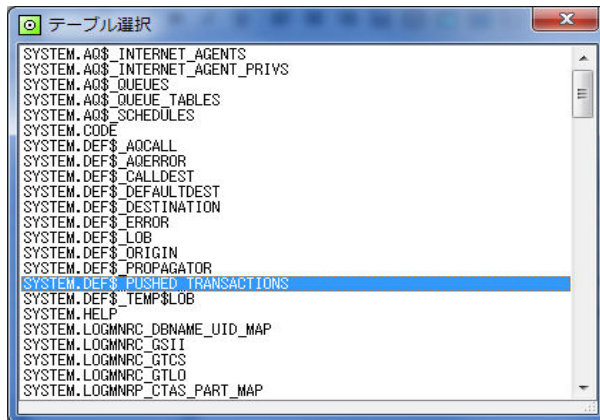
SQL中に埋め込んだパラメータに値をセットします。
登録は、その都度SQL中のパラメータを識別して入力項目とします。
(事前に入力した値は消去されます)
編集は、パラメータ項目の識別を行いません
(事前に入力した値は消去されませんが、前回パラメータ登録後にパラメータを追加しても反映されません)
メイン画面のメニューバーから呼び出します。
[パラメータ] → [登録] / [編集]



画面説明

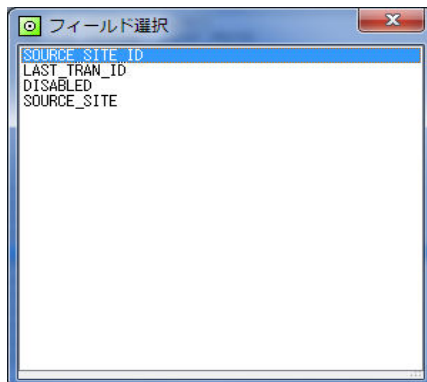
■ テーブル選択

指定したフォルダ内に置かれたCSVファイルの一覧を表示します。
ダブルクリックによりSQL中にテーブル名(ファイル名)を埋め込みます。
右クリックによりフィールド選択を開きます。
メイン画面から右クリックにより呼び出します。



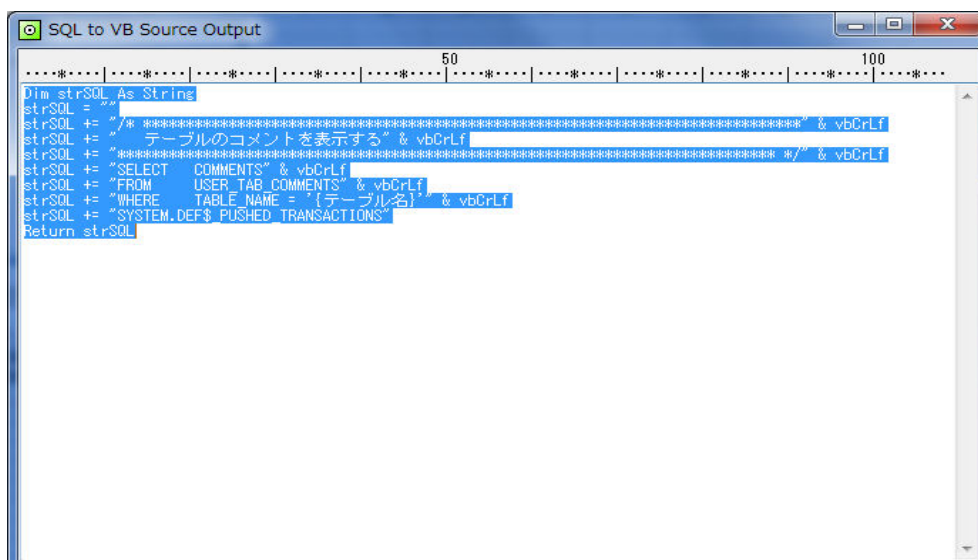
■ フィールド選択

指定したテーブル内に設定されたフィールド名の一覧を表示します。
ダブルクリックによりSQL中にフィールド名を埋め込みます。
オプションによりフィールド名なしに設定した場合は F1 からの仮項目を表示します。
テーブル選択画面から右クリックにより呼び出します。



■ VBソース変換

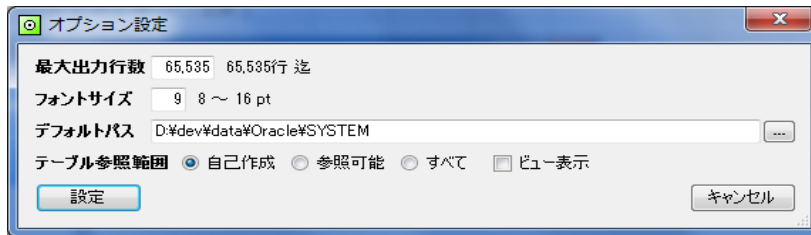
編集したSQLをVB.netのソース中に埋め込むために変換します。
簡単な編集を行うことができます。
メイン画面のメニューバーから呼び出します。
[ツール] → [VBソース変換]



画面説明

■ オプション設定

プログラム実行上の基本項目の編集を行います。
詳細は別記
メイン画面のメニューバーから呼び出します。
[ツール] → [オプション]



項目説明

最大出力行数	Excel に出力する際の最大行数を指定する Excel2000/2003 などの上限の 65,536 行を上限としている
フォントサイズ	8 ~ 16pt から自由に指定出来、設定変更後指定のフォントサイズで SQL を編集することが出来る
デフォルトパス	SQL ファイルの保存先を指定する (CSV ファイルではない)
テーブル参照範囲	テーブル・フィールド選択画面のデータ取得元を SYS ユーザが所有するビューのうち USER_, ALL_, DBA_ から指定する
ビュー表示	テーブルのみ、ビュー追加を指定する

■ バージョン情報

プログラムのバージョン情報を表示します。
メイン画面のメニューバーから呼び出します。
[ヘルプ] → [バージョン情報]



操作説明

■ 準備

ダウンロードしていただいたファイルを同一のフォルダに全て展開してください

■ 起動方法

put02E.exe を実行します。

ユーザ名・パスワード・ホスト文字列を指定します。

2 回目以降の実行時は前回指定したユーザ名・ホスト文字列が登録されています。

■ S Q L 編集

当プログラムオリジナル機能としてパラメータがあります。

パラメータ項目は { } で囲んでください

※ 申し訳ありませんが、Ver.1 で [] としていましたが変更させていただきました。

S Q L 内にパラメータはいくつでも指定できます。

同一パラメータ名を複数埋め込むことが出来、代入される値は全て同一内容になります。

パラメータは抽出条件だけでなく、テーブル名・フィールド名その他どんなものにも利用できます。

パラメータにより代入する値は、パラメータ登録・編集画面により指定します。

```
S Q L 例)      SELECT   郵便番号  
                , 県名 || 市区町村名 || 地名 AS 地名  
FROM           愛知県  
WHERE          地名 LIKE '%{パラメータ 1}%'
```

■ Excel 出力

要件を満たした S Q L を編集した上で、メニューバーから [ツール] → [Excel 出力] を指定することで該当するデータを抽出し Excel に出力することが出来る

